

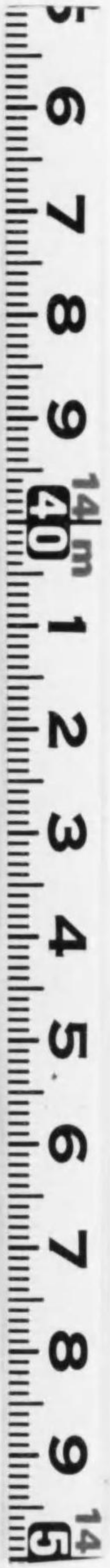
010
000

010-0287



1200500723172

第 一 編
圖書館作業叢書
大橋圖書館
中堅會作業報文
竹内善作編
其一



始



278

319

圖書館作業叢書第壹編

大橋圖書館

中堅會作業報文

其一

財團法人 大橋圖書館

010
028

序

こゝに輯めた作業報文はすべて實踐の記述體驗の報告である。また發表者は殆ど例外なく無名の青少年圖書館員である。而もその眞摯さと未熟さとは、十分將來を期待していゝものがある。元來この大橋圖書館中堅會は昭和十三年の春、自治的に組織せられ季刊「努力」を機關誌としてゐるものである。「努力」は菊判數十頁の小冊子で、發行部數は約六十部、主として會員に頒ち、他へは殆ど贈られてゐない。作業の研究に關しては、近來外地及内地の圖書館互に相競ふの風があり、屢々貴重なる文献を刊行して寄與せらるゝもの尠くなかつた。本館に於ても聊かこれに酬いんがため、いま會員の承諾を得て印刷に附し、更に附録として昭和十二年の秋、大橋圖書館トビツクに掲げた時局に關聯する小篇二つを添へ、同業の士の座右に薦む。大方の御批判御教示が得らるゝならば眞に仕合である。

昭和十四年三月

編者

和算書の分類と目録法

竹内 善作

図書館の相當の地位にある人々の間に、私の圖書分類言ひ換へれば有機的分類法の各細目が、大變判り悪いといふ批評を聞く。これは從來の常識的分類と異つて、専門的の學術語を僅ばかりではあるが、各方面に使用してゐるためであらうと考へる。この意味で分類の各網目に亘つて解説を試みるのも必ずしも不必要のことではあるまい。今大橋図書館の印刷目録の中數學の部分が刊行されようとしてゐるので、その機會に和算書の分類と目録の記載に關し簡單に述べてみようと思はれる。

和算の歴史に就ては、今茲で詳しく述べる迄もなく、次にあぐる参考書を御覽願ひたいのである。

遠藤利貞著 日本數學史

細井 淙著 和算(岩波講座)

三上義夫著 東西數學史

これ等の著書に就ても、和算書の著者として掲げられたる中には、多少疑問と思はれるものも相當にあるのである。

一體我國に於ける算學は、支那より傳はつたもので、欽明天皇の御代に曆學、測量等所謂天文術に

目次

分類及目録作業	竹内 善作……一
和算書の分類と目録法	三宅 隆……二四
閱覽用見出カード	
閱覽及函架作業	
出納 臺 管 見	磯野浩三郎……元
チエツクに就いて	板倉 慶和……二六
經理及會計作業	
リフトと室内衛生	眞山 正吾……三三
落 丁 調 べ	金森 與八……三六
規則及調査作業	
館内の掲示についての覺書	三宅 隆……四一
附 録	
野戰圖書館に就いて	竹内 善作……四四
戰地 巡回 文庫	愛澤 豊勝……四七
大橋圖書館 參考用 數學圖書分類表……	……ハ

關する實用數學が輸入されたのがその初めである。併し安土桃山時代までは多分に道教の影響を受けて、數學としてよりは呪術的占術的に用ひられてゐた傾があつたのである。その後經濟組織の變革交通の發達等に隨伴して、數學としても幾分の發達を見たが、畢竟支那數學の模倣に過ぎなかつた。足利時代の少し前に輸入されたのが『算學啓蒙』であり、これが當時に於ける數學書のバイブルとも言ふべきものであつた。豊臣時代になつて諸侯の領土を定めるのに、田地測量法を用ひるやうになり、この關係から秀吉に重用されたのが毛利勘兵衛重能である。重能は秀吉の没後京都で算學指南所の看板を掲げ一般大衆に算學の普及を圖つた人であるが、秀吉の命を受け明に渡り珠算を習得して歸國した。或は長崎あたりで習熟したのではないかといふ説もあるが、どちらが本當であるか自分はまだ十分に研究してゐない。この重能の弟子に吉田光山があり、この光山が初めて日本化された數學書『塵劫記』を著した。この書は何人にも容易に理解されることを旨とし、珠算の計算から其應用問題を説き、最後に求積法などに及んだもので、大に普及され、珠算そのものが塵劫記と言はれて、明治時代に及ぶまで民間に於ける唯一の數學入門書となつてゐたのである。その後重能の高弟高原吉種の門下から關孝和が出た。この關孝和に依つて和算が工夫發明されたのである。

關孝和は約二百九十年前（寛永十九年頃）に生れた人で、幕府の勘定方に採用されたが、數學の天才で殆ど獨力で算學の研究を行つたのである。當時、珠算を類算術と言ひ、支那傳來の算學を籌算術といつた。その最も發達したものは支那の代數學たる天元術であつた。天元術は左から横に算木を列べる數學であつたが、孝和はこれを改良して筆算式とし、更に縦書に直して天元演段術と稱へた。其後孝和はまたその記號を數字及文字化して所謂傍書式となし、これを歸源整法と稱した。この傍書式に對して演段術の記號を籌式といつた。孝和の歸源整法は後に點算術と改められたが、この點算術は單なる代數學ではなく幾何學的の計算問題をも含み、かなり範圍の廣いものであつた。點算術の發明後孝和は間もなく同理即ち解析學の考案に到達したと傳へられてゐる。これはデカルトやライブニッツと偶然にも時を同じうしての發見であつた。西洋では代數學から解析までの發達に約二百年を要したと言はれてゐるから、蓋し孝和の業績は偉とせねばなるまい。孝和の工夫以後種々の流派が生れ、遂に明治の初年には無限級數の一端まで研究が發展して來たのであるが、維新後西洋數學の輸入と共に計算の布置が煩雜で説明の容易でない筆算式の和算は、珠算を残したまゝで何時となしに顧られなくなつてしまつたのである。

次に和算の分類であるが、和算には目新しい術語が多い。これ等の術語が現在の何にあたるかを調べて見なければならぬ。今思ひ出すまゝに擧げて見れば、

交式斜乗
 開方式
 零約術
 適盡諸級法
 剩一、胸一及剪管術
 變數
 招差及染術
 勾股弦
 双弦股
 容術
 整數術(無有奇)
 極數術
 綴術
 平方綴術
 行列式
 方程式
 不盡數ヲ連分數ニ展開スル方法
 極大極小ニ應用セララル
 不定解析
 順列組合セ
 級數ノ索和法ニ於ケル未定係數法
 直角三角形
 一般三角形
 初等幾何學(日本獨特ノモノ、内接外接形ノ研究)
 幾何學的整數論
 幾何學的極大極小論
 圓周率及圓孤
 平方根ノ展開級數

圓理整數術
 圓理弧背術(圓理綴術)
 圓塙穿去術——圓理密術
 圓理適盡法(圓理極數術)
 異圓
 圓理稱平術
 地方算法
 積分
 積分ニ屬ス、根數ヲ無限級數ニ展開スルモノ
 二重積分——極限論
 微分函數論、積分ニモ關係アリ
 特殊典線曲面論
 物理數學
 應用數學(積材、山林、規矩術、土木、測量等の數學)
 この術語は支那から來たものが多い、中には漢譯された歐米語も混じて來てゐたらしい。我國では西洋數學の代數學を明治の初年に點竄術と譯したことがあるが、和算に於ける點竄術はこれと全く異つてゐるのである。
 和算書の大體の分類は

- 一、珠算(顆算術)
- 二、『漢(支那)算法
布算術(古代算法及天元術等)』

天元演段術(籌式筆算術)

六

三、點 竄 術(傍書式筆算術)

『代數學的』點竄術(交式斜乘、開方式、約術、兩一及翦管術、變數、招差及槩術)
『幾何學的』點竄術(勾股弦、双弦股、容術、整數術、極數術)

四、圓 理

圓理整數術

圓理綴 術(圓理孤背術)

圓理適盡法(圓理極數術)

五、地 方 算 法

右の如く五ツに分けるのが穩當かと思ふ。學士院に和算書が集められて居ると言ふ事は前から聞いてゐたが、その學士院で發行されたものに、「和算書分類目錄」やまた「和算書目錄」などがあるけれども、いづれも完全な分類ではない。

それから關流の藤田貞資と約二十年に亘つて論争を續けた會田安明が、文化年間に天生術と言ふ新しい算法を稱へたが、これも代數學であり、點竄術と同じものである。此外長谷川寛の極形術の如き

ものもあるが、これは容術等に應用される變形術の一種である。また數學者が自己の地位を確保する方便として新しい問題を考案して神社へ奉額した。これを奉額算題と言つた。江戸では多く愛宕山に上げたらしい。問題を遺して死ぬのを遺題(ケンタイ)と言ひ、これに答へるを承答(シャウタウ)と言つた。併し和算書は餘りこまかく分類する必要はあるまい、また専門に研究した者でないと困難でもある。

目錄に於ては著者名の取り方がむづかしく、うつかりすると間違へる。和算書は刊行當時に需用者が少なかつたため、殆んど自費出版であるが、多くの場合著者には餘裕のなかつたため、他人に名義を假してその出資によつたものが相當に多い。町人百姓で算學の研究などをするものは概して資産のある者であつたから、かうした場合には出資者の名を擧げて某々編とし、著者は某々閱と云ふ名目で刊行したものである。それからまた門弟數人の出資にかゝるものは、三人なり五人なりの共編または共訂としたりした。その他久留米の藩主有馬頼徳の如く自分の著作を家來の算學家の名義にしたものもあり、また傳承の常として先生の著作として發表しても、事實は弟子の見解が多分に含まれて、寧ろ共著として取扱ふ方が穩當なものもあり、また先生と弟子との純然たる共著もある。

要するに和算書の著者名の取り方は、書物の出來た前後を調べて記入しなければならぬから、和

漢算法を一通り研究した後でないといと種々不都合を生ずる惧れがある。(太陽會講演)

大橋圖書館 参考用 數學圖書分類表

- アア 算數**
 - ! ! ア 辭典公式及表
 - ! ! カ 便科
 - ! ! タ 通俗講義
 - ! ! ハ 受驗参考書及自修書
 - ! ! ヤ 問題集及問題解義
 - ! ! ヲ 圖錄圖譜及圖說
- アイ 通論**
 - ! ! ヲ 圖錄圖譜及圖說
 - ! ! イ 論
 - ! ! ア 論
- アウ 各論**
 - ! ! ア 整數及小數
 - ! ! カ 分數
 - ! ! タ 諸比及比例
 - ! ! ハ 應用算術
 - ! ! ヤ 工業業算術
 - ! ! ヲ 商業算術
- アオ 算數學一般**
 - ! ! カ 他ノ學術トノ關係
 - ! ! タ 叢史
 - ! ! ナ 教授法及研究論文
 - ! ! ハ 敘述及研究論文集
 - ! ! マ 漫錄及雜記
 - ! ! ヤ 關係學會協會
 - ! ! ヲ 講座講演及彙報
 - ! ! イ 書目及解題
 - ! ! ア 辭典公式及表
 - ! ! カ 便科
 - ! ! タ 通俗講義
 - ! ! ハ 受驗參考書及自修書
 - ! ! ヤ 問題集及問題解義
- アカ 代數**
 - ! ! ア 辭典公式及表
 - ! ! カ 便科
 - ! ! タ 通俗講義
 - ! ! ハ 受驗參考書及自修書
 - ! ! ヤ 問題集及問題解義
- アキ 初等代數**
 - ! ! ア 通論
 - ! ! タ 有理整式及分數式
 - ! ! カ 無理方程式
 - ! ! ナ 初等整數論
 - ! ! ハ 初等代數論
 - ! ! マ 各通論
- アケ 高等代數**
 - ! ! ア 通論
 - ! ! タ 代數方程式(確率)
 - ! ! カ 無理方程式(確率)
 - ! ! ナ 群論
 - ! ! ハ 整數論
 - ! ! ヤ 初等函數論
 - ! ! ヲ 初等代數論
 - ! ! ア 他ノ學術トノ關係

- アサ 幾何**
 - ! ! タ 史傳
 - ! ! ナ 叢書
 - ! ! ハ 教授法及研究論文
 - ! ! マ 敘述及研究論文集
 - ! ! ヤ 漫錄及雜記
 - ! ! ヲ 關係學會協會
 - ! ! イ 講座講演及彙報
 - ! ! ア 書目及解題
- アジ 通論**
 - ! ! ア 初等幾何論
 - ! ! カ 平面幾何論
 - ! ! タ 立體幾何論
 - ! ! ナ 非ユークリッド幾何論
 - ! ! ハ 四次元幾何學
 - ! ! マ 近世綜合幾何學
 - ! ! ヤ 射影幾何學
 - ! ! ヲ 直線圖形
 - ! ! ア 軌跡及作圖
 - ! ! カ 極大極小
 - ! ! タ 「幾何學原理」
 - ! ! ナ 圖學及幾何畫法
 - ! ! ハ 辭典公式及表
 - ! ! マ 通俗講義
 - ! ! ヤ 受驗參考書及自修書
 - ! ! ヲ 問題集及問題解義
 - ! ! ア 圖錄圖譜及圖說
- アタ 三角形幾何學**
 - ! ! タ 通論
 - ! ! ナ 總論
 - ! ! ハ 平面幾何論
 - ! ! マ 立體幾何論
 - ! ! ヤ 圖學及幾何畫法一般
 - ! ! ヲ 辭典公式及表
 - ! ! ア 便科
 - ! ! カ 通俗講義
 - ! ! タ 受驗參考書及自修書
 - ! ! ハ 平面三角法
 - ! ! マ 球面三角法
 - ! ! ヤ 問題集及問題解義
 - ! ! ヲ 平面三角法
 - ! ! ア 球面三角法
 - ! ! ア 通論
 - ! ! ア 三角法總論
 - ! ! ハ 平面三角法
 - ! ! マ 球面三角法
 - ! ! ナ 球面三角法
 - ! ! ヲ 各論
- アツ 各論**
 - ! ! ハ 平面三角法
 - ! ! マ 球面三角法
 - ! ! ナ 球面三角法
 - ! ! ヲ 三角法
 - ! ! ア 球面三角法

アヤ 概用 数学 要
 アモ 和漢算法一般
 アメ 地方算法
 アカ 他ノ學術トノ關係
 アサ 叢書
 アナ 教授法及研究法
 アハ 叙述及研究論文
 アマ 漫録及雜記
 アヤ 關係學會協會
 アラ 講座講演及彙報
 アロ 書目及解題

ア 辭典公式及表
 アカ 便科書
 アタ 通俗講話
 アナ 受驗參考書及自修書
 アハ 通論及近似數學
 アマ 物理數學
 アヤ 其他ノ應用數學
 アラ 問題集及問題解義
 アロ 圖錄圖譜及圖說圖表
 アユ 實用數學(近似數學)
 アカ 通論
 アタ 數值計算(近似計算)
 アナ 省略算
 アハ 補間法
 アマ 方程式論
 アヤ 數值微分法
 アラ 及積分法
 アロ 確率論(實驗公式)
 アヤ 相關關係
 アラ 計算圖表
 アロ 數學

アロ 統計學
 アヨ 物理數學
 アカ 各通論
 アサ 熱傳導、フ
 アハ リエ級數論
 アマ ルジャンドル函數
 アヤ 雙曲線函數
 アラ 「ベクトル解析
 アロ 及テンソル
 アヤ 特殊物理數學
 アハ ボテシアル論
 アマ 「解析力學
 アヤ 「彈性學
 アラ 「天體力學
 アロ 「量子力學
 アヤ 「物理計算法
 アラ 「化學計算法
 アロ 「農林數學
 アヤ 「林業計算學」

アラ 概用 数学 要
 アロ 應用數學一般
 アヤ 利息計算
 アハ 爲替計算
 アマ 會計數算
 アハ 商業數算
 アヤ 保險數算
 アロ 通論
 アハ 經濟數學
 アマ 測定計算
 アハ 燃燒設備計算
 アヤ 荷重計算
 アロ 構造計算
 アハ 「電氣計算」
 アマ 機械設計計算
 アハ 各種工學計算法
 アヤ 特殊工業數學
 アロ 各種工學計算法
 アハ 土積計算
 アマ 機械設計計算
 アハ 「電氣計算」
 アヤ 構造計算
 アロ 荷重計算
 アハ 燃燒設備計算
 アマ 測定計算
 アハ 經濟數學
 アヤ 通論
 アロ 保險數算
 アハ 商業數算
 アマ 會計數算
 アハ 爲替計算
 アヤ 利息計算
 アロ 應用數學一般
 アハ 概用 数学 要

ア 辭典公式及表
 アカ 便科書
 アタ 通俗講話
 アナ 受驗參考書及自修書
 アハ 通論及近似數學
 アマ 物理數學
 アヤ 其他ノ應用數學
 アラ 問題集及問題解義
 アロ 圖錄圖譜及圖說
 アユ 實用數學(近似數學)
 アカ 通論
 アタ 數值計算(近似計算)
 アナ 省略算
 アハ 補間法
 アマ 方程式論
 アヤ 數值微分法
 アラ 及積分法
 アロ 確率論(實驗公式)
 アヤ 相關關係
 アラ 計算圖表
 アロ 數學
 アヤ 辭典公式及表
 アハ 便科書
 アマ 通俗講話
 アハ 受驗參考書及自修書
 アマ 通論及近似數學
 アハ 物理數學
 アヤ 其他ノ應用數學
 アラ 問題集及問題解義
 アロ 圖錄圖譜及圖說
 アユ 實用數學(近似數學)
 アカ 通論
 アタ 數值計算(近似計算)
 アナ 省略算
 アハ 補間法
 アマ 方程式論
 アヤ 數值微分法
 アラ 及積分法
 アロ 確率論(實驗公式)
 アヤ 相關關係
 アラ 計算圖表
 アロ 數學

出されたもので、閲覧目録の編成
 へのみ使用せらるゝものである。
 尚ほ本表の使用法に關しては、本
 館の刊行物大橋圖書館和漢圖書分
 類目録數學之部の分類所屬索引の
 小引を参照せられんことを乞ふ。

閱覽用見出カード

三 宅 隆

最初に、見出カードの具備すべき要件として、先づ、強靱性を挙げなくてはならない。若し見出カードが半年以内に磨滅破損するやうなことがあるとすれば、これはその書き換への煩勞に耐えられないであらう。次に、文字の書き易く、しかも書かれた文字の見易いこと。最後に、安價といふことも挙げなくてはならないが、これは、その單價の安いといふことでなくて、耐久性を考慮に入れての問題でなくてはならない。以上の條件にほぼ合致したものととして、こゝにファイバーを取上げたいと思ふ。

ファイバー

正しく言へば、グアルカナイズド・ファイバーである。木綿、麻またはウッドパルプ等を原料として、製紙の工程中まだ膠や樹脂でインキ止もせず、全く耐水性のない薄紙を薬品にて處理し、表面を膠化せしめ、之れを重ね合せて強壓し、洗滌・乾燥せるものである。その工程は次の如し。1、原料纖維の調製。2、抄紙。3、膠化及壓着。4、洗滌。5、乾燥。6、仕上げ。その製品の色は、着色料を用ひぬものは灰色であり。染料又は辨柄を加へたものは赤く、染料又はカーボンブラックの適量を加へたものは黒色になるのである。

前記の如く、その地色は、現在市場にあるものとしては、赤色・黒色・灰色の三種に過ぎないのであるが、これは山の切り方によつて、赤色・黒色の二種だけでも充分であると思ふ。但し、本館のやうに、分類内容の詳細な図書館では、ある場合、灰色のものを補助的に使用して甚だ便利を感じることも多いのである。今、本館での現状を例に挙げると、先づ、大みだしとして赤色のものを全長の五分の三を山にして『門』を、同じく赤色を三分の一の山にして『綱』又は『科』を表し、黒色の四分の一の山をもつて『科』又は『目』を、更に、灰色の四分の一の山をもつて『屬』『種』を表す等である。但し、この割あては大體の基準を示すものであつて、ある『科』に於ては、赤色の四分の一の山、又は五分の一の山をも使用し、時には、黒色の三分の一の山をも使用する場合がある。なほ、ファイバーの地色としては何色が最も優秀であるか、の問題であるが、文字を白インクで手寫してゐる現在では、結局、黒色のものを最良としなくてはならない。赤色のものは、黒色のものに比べて、白文字が沈んで見えるのである。その上、赤色のものは汚れ易い、といふよりは、汚れが目につき易いといふことも一つの缺點である。然し、前に述べたやうに、分類内容の詳細な場合は如何に山の工夫をこらしても、黒色一種では不自由なのである。従つて、大きい見出を赤色で、その下の、最も多量で、しかも主要な部分を黒色で、といふのが本館に於ける現在の使用方針である。

次に、これに使用するインキは、現在のところ、白色の外には適當なものがないやうである。これは、以前、米國製のもので非常に使い良いものがあつたのであるが、現在では國産のもので充分である。これを鐵ペンで使用するのであるが、この場合、スポンヂゴム又は海綿の類に水を含ませておいて、ペン先にインキの凝固する度に、これで拂拭すると具合のいいものである。鐵ペンの代りに毛筆を使用することは、まだ經驗してゐないのであるが、これは、研究の次第によつては案外結果の良きものではないかと思つてゐる。

次に、インキはすべて水溶性のもの故、その乾いた上に上塗液を塗布しなくてはならない。上塗液の具備すべき要件としては、乾燥の迅速、乾燥後の透明性、殊には無色なること、取扱上の簡易等であつて、種々試みた結果として、本館では次のものを現在使用してゐるのである。即ち、化學用醋酸アミール一〇〇グラムに對してセルロイド片（二〇センチ平方のもの）一枚の割合で溶解するもので、これは、投入後、十五分を待たずに完全に溶解する。これを小瓶に分けて使用するのであるが、この際、使用瓶の栓に圖のやうに、毛の一把を針金でくくつたものを取付けて、これを刷毛の代用とすれば、使用の都度、刷毛を洗滌する面倒が省けて便利である。このセルロイド溶液は塗布後十分から二十分の間には完全に乾燥するものである。



尙ほファイバーの新しいものは、往々、製造工程中に使用された藥品のために、甚だしい撥水性を持つてゐるものであるが、これは揮發性のもので、時日の経過と共に發散するものである。しかし、その發散するのを待たずに使用する必要がある場合には揮發油で拭ふことによつて、著しく書きよくなるものである。

右のやうに、ファイバーに白インキで文字を書き、セルロイド溶液を上塗した閱覽用見出カードの耐久性については、まだ充分の研究を経てゐないため、正確な記述が出来ないのであるが、本館の數學、教育、小説等、相當頻繁に使用されてゐる部門においても一ヶ年半は充分であるやうに思はれるのである。尙ほ以前、上塗液として、『透明ニス』の類を使用してゐた時代には、日光の直射によつて、白い粉様の汚斑が出来て、そのため、三四ヶ月を出ないで書き換へるといふ煩しさを經驗したのであるが、セルロイド溶液の場合には左様のことはまだ無いのである。

終りに、本館に於けるファイバー使用の由來を顧みると、先づ、大正十五年來、赤色のものに白文字を毛筆で書いてゐたやうである。次いで、赤色のものにブリューブラック又は黒色インキで文字を書き、その次に、同じく赤色のものに白インキを使用して透明ニスの上塗液を塗布してゐたのであ

る。さうして昭和三年、竹内主事の就任後、黒色ファイバーを採用し、文字は矢張り白インキを使用してゐた。やがて、昭和五年、圖書分類の大改革に伴つて、黒色だけでは不充分となり、ここに現行の通り、赤色のものを大見出しに、主要部分を黒色に改めたのである。灰色のものは更らに降つて昭和九年頃から使用した。尙、『透明ニス』に代るセルロイド溶液は、昭和十二年に試用し、同年末から正式に使用したものである。

出納臺管見

磯野 浩三郎

捺 印

閲覧係（圖書貸付係）として交附請求に際しての捺印事務に就いて、申し上げて見ます。

図書館の事務で、現実的でないものはありませんが、其うちで、印形押捺は、図書館と閲覧人とを結ぶ、最も現実的なものゝ一ツであります。印一ツに依つて、そこに圖書貸借の關係が判然と現れ、圖書閲覧に關するあらゆる統計も、總べて捺印そのものに依つて、初めて基礎づけられ、且かたちづけられて行きます。其處に捺印事務の重要性があるものと思ひます。

恁う考へてくると、一ツでも印を捺し違へたならば、閲覧者に對する不親切はもとよりの事、それに依つて導かれるべきあらゆる統計は、眞とは言ひ難い。少くとも眞實に遠ざかりつゝあるものだと云ふ事が出來ます。

請求圖書と違つた本を渡された閲覧人が、直ちに氣が付いて注意して呉れ、ば宜し、若しも多數一時に借覽して後氣が付いたが、さして必要とも認めず、その儘に濟ますとか、また閲覧人も氣付かな

い儘に推移した場合、當事者として誠に不甲斐無き限りと思はれます。

無論そんな場合、捺印者としては、氣が付いてゐないのですから、何の苛責も感じないと言へば、それ迄ですが、それを一歩進んで、この様な間違ひは、絶対にしないといふ程の自信を以てする事は必要です。

出納手の持つて来る圖書が全部正しく、請求圖書であるときまつて居れば、問題は無い。貸付の仕事は單なる盲目判で充分です。そして貸付の仕事の影は大分薄くなります。

併しそれは現實問題としては、言ふべくして、行はるべからざる底のものでせう。これはどうしても出納手と貸付との協力に依つてのみ、求め得べき問題です。

然らば如何に爲せば宜いか。理想的には、出納手は書庫内で、請求圖書の分類と番號をよく確かめ貸付は亦貸付で同じく分類と番號を確かめれば、一番確實です。これは、確實は確實ですが、分類と番號を同程度に注意する事は、時間的にはスロー・モーションとなり、精神的には疲労が甚しいものです。こゝで出納と貸付との協力といふ言葉をすこし擴げて、分類と番號との二ツに責任の輕重を付け、例へば出納手は主として分類に責任を持ち、貸付は主として番號に責任を持つといふ具合に分擔したならばどうでせうか。勿論番號を見ず分類のみでは圖書は出せず、番號のみ見て分類を顧みない

では貸付に不安でせう。其處を七分三分的に氣を付けければ、實際的な、そして誤りの少ない事務をとる事が出来、従つて自信のある仕事を爲る事が出来るのではないでせうか。唯此場合の責任といふ言葉は出納貸付間相互の問題であつて、捺印した圖書に對する責任は、貸付の持つものであることは勿論です。

夜勤部では、大體恁んな方針のもとに事務をとつてゐます。

な ま へ

出納臺に坐つてゐた間、色々面白い事であつた中に注意を惹いた一つは閲覧人のなまへでした。必要上から折に觸れて集めたものが相當の數にのぼつて居ます。奇想の將に天涯より落つるの概あるもの、どうしてさう訓讀するのか譯の分らぬもの、なあんだと拍子が抜けて了ふ様なものなど、なまへなども集めて見ればこれで馬鹿にならぬ面白いものだと思つきました。圖書館にも、難讀人名便覽(ヤン3ー601)と云ふ凡そ憂鬱な本がありますが、私の集めたものは、此大橋圖書館に、少くとも一回以上閲覧者として來館したものゝみである所に一つの特徴があります。これ等を發音の五十音順に整理し書き並べて見ました。單に面白いなあと愉快に讀んで戴け、時に讀者諸賢のお役にでも

立てば幸甚の至りであります。

芥	アクタ	環	アクツ	麻薙	アサナギ	麻畑	アサハタ
遊部	アソベ	中	アタリ	姉穂	アネホ	甘粕	アマカス
嵐田	アラシダ	新	アラタ	荒梅	アラメ	有賀(我)	アリガ
淡路	アワジ	安生	アンシヨオ	安念	アンネン	阿武	アンノ
安樂	アンラク	五百澤	イオザワ	五十川	イカガワ	筏	イカダ
猪狩	イカリ	諫早	イサハヤ	井尻	イジリ	一重	イチジュウ
一戸	イチノヘ	一藤	イチフジ	市丸	イチマル	齋田	イツキダ
一志	イツシ	稻子	イナゴ	伊吹山	イブキヤマ	伊福部	イフクベ
伊與田	イヨダ	伊良皆	イラミナ	岩目地	イワメジ	宇井	ウイ
鶴久森	ウクモリ	牛玖	ウシク	笛吹	ウスイ	埋橋	ウズハシ
臺	ウテナ	梅庭	ウメニワ	嬉野	ウレシノ	穎川	エイガワ
戎居	エビスイ	海老名	エビナ	生出	オイズル	大鋸	オオガ
和宇慶	オオケ	大重	オオシゲ	大手山	オオテヤマ	大前	オオマエ

近江	オオミ	大見謝	オオミシヤ	岡井	オカイ	魚返	オガエリ
翁	オキナ	翁長	オキナガ	屋宜	オクヨシ	小神野	オゴオノ
尾頃	オゴロ	長	オサ	邢部	オサカベ	尾佐竹	オサタケ
押切	オシキリ	御供田	オトモダ	小野木	オノギ	小保内	オボナイ
表	オモテ	海寶	カイホオ	柿木原	カキノキハラ	角久間	カクマ
鹿毛	カゲ	文	カザリ	加治	カジ	加治木	カジキ
和井	カズイ	勝連	カツレン	嘉手苧	カテガリ	上遠野	カドノ
金刺	カナザシ	兼築	カネチク	神作	カミサク	龜甲	カメコオ
辛島	カラシマ	加利川	カリカワ	河和	カワワ	甘樂	カンラク
喜久	キク	龜甲谷	キコヤ	木名瀬	キナセ	衣笠	キヌガサ
宜保	ギボ	君和田	キミワダ	喜友名	キユナ	木呂場	キロバ
銀杏	ギンナン	空花	クウゲ	日鼻	クサハナ	鯨岡	クジラオカ
國定	クニサダ	國武	クニタケ	久場川	クバガワ	口分田	クモデ
久力	クリキ	樽松	クレマツ	花見	ケミ	玄後	ゲンゴ

勢理客	折田	陣内	城	摩志	地頭	鹽屋	佐俣	作佐部	道祖土	五本	小納谷	五弓	劔持
セリキヤク	セツタ	ジンナイ	ジヨオ	シマ	ジトオ	シオヤ	サマタ	サクサベ	サイド	ゴモト	コノヤ	ゴキユウ	ケンモチ
仙波	背戸川	神人	白木澤	釋迦郡	地主	色摩	三溝	座光寺	榮谷	小八重	小間	國衙	神品
センバ	セトガワ	ジンニン	シロキザワ	シヤカゴオリ	ジヌシ	シカマ	サミゾ	ザコオジ	サカエヤ	コヤエ	コマ	コクガ	ヨオジナ
左右田	瀬戸口	須栗野	新家	十藏寺	地引	穴野	鮫島	佐治	坂梨	齋五澤	古明地	小長光	弘法
ソオダ	セトグチ	スグリノ	シンカ	ジユウゾオジ	ジビキ	シンノ	サメジマ	サジ	サカナシ	サイゴザワ	コメジ	コナガミツ	コオボオ
十河	世良	酢谷	眞道	十文字	澁田見	紫藤	澤岬	定方	鷺	最首	古目谷	許斐	後閑
ソゴオ	セラ	スヤ	シンドオ	ジユウモンジ	シブタミ	シドオ	サワシ	サダカタ	サギ	サイシユ	コメヤ	コノミ	ゴカン

奈惚	中東	豊福	戸毛	東堀	鶴園	都竹	政	竹紫	丹野	立	瀧鍵	高張	柚谷
ナボリ	ナカヒガシ	トヨフク	トゲ	トオボリ	ツルゾノ	ツズク	ツカサ	チクシ	タンノ	タツ	タキカギ	タカハリ	ソマヤ
生江	半井	仲兼久	床鍋	戸叶	天華寺	黒葛原	津雲	中後	檀谷	谷一	詫間	高味	征矢野
ナマエ	ナカライ	ナカカネク	トコナベ	トカノオ	テンゲジ	ツズラハラ	ツグモ	チュウゴ	ダンヤ	タニイチ	タクマ	タカミ	ソヤノ
鯨江	南雲	中木村	土信田	外狩	道願	塘	圖師	帖佐	千竈	玉手	匠	高向	大師堂
ナマズエ	ナグモ	ナカキムラ	トシダ	トガリ	ドオガン	ツツミ	ヅシ	チヨオサ	チガマ	タマテ	タクミ	タカムキ	タイシドオ
行川	夏秋	中代	友清	鶴田	銅直	津布久	續	司	千吉良	段	多古田	達谷窟	田井中
ナメカワ	ナツアキ	ナカダイ	トモキヨ	トキダ	ドオナオ	ツブク	ツズキ	ツカサ	チギラ	ダン	タコダ	タガヤ	タイナカ

南平	ナンペイ	新家	ニイノミ	兒子	ニコ	二反長	ニタンチヨオ
二瓶	ニヘイ	楡井	ニレイ	二蓮木	ニレンギ	忍頂寺	ニンチヨジ
拔井	ヌクイ	根市	ネイチ	根布谷	ネブヤ	野依	ノヨリ
野呂	ノロ		ハカリ	波木	ハギ	間	ハザマ
荷見	ハシミ		ハチス	垣生	ハブ	土生川	ハブガワ
針貝	ハリガイ		ハリマサ	般若	ハンニヤ	樋泉	ヒイズミ
比嘉	ヒカ		ヒカサ	樋川	ヒカワ	疋鳥	ヒキシマ
日隈	ヒクマ		ヒコダ	日名子	ヒナゴ	枚田	ヒラタ
蛭沼	ヒルヌマ		ヒルマ	比留間	ヒルマ	博見	ヒロミ
依木	ヒヨオキ		ヒヨオクチ	福圓	フクエン	福神	フクジン
房宗	フサムネ		フシマ	二牟禮	フタムレ	譜天間	フテマ
不動	フドオ		フルミ	古本	フルモト	別枝	ベツキ
別役	ベツチヤク		ホオキ	伯耆原	ホオキバラ	寶鏡	ホオキヨオ
星子	ホシコ		ホシバ	保昌	ホシヨオ	發地	ホツチ

本位田	ホンイデン	本棒	ホンボオ	眞板	マイタ	笹	マガキ
眞籠	マカゴ	柵木	マセギ	辨目	マダラメ	馬路	マロ
美甘	ミカモ	御子柴	ミコシバ	見坐地	ミザチ	三須	ミス
道場	ミチバ	藥袋	ミナイ	三鍋	ミナベ	御法	ミノリ
名井	ミヨオイ	宗像	ムナカタ	明慶	メイケイ	目賀田	メガダ
米良	メラ	校條	メンジヨオ	木原	モクハラ	茂古沼	モコヂ
持徳	モチトク	本吉谷	モトヨシヤ	森治	モリジ	諸遊	モロユウ
紋田	モンダ	八掛	ヤツガケ	八田	ヤツダ・ハツタ	矢作	ヤハギ
藪	ヤブ	山野井	ヤマノイ	山の端	ヤマノハ	與語	ヨゴ
美添	ヨシゾエ	儀武	ヨシタケ	頼信	ヨリノブ	力武	リキタケ

チェックに就いて

板倉慶和

現在本館で不在圖書である事を示す爲に使用してゐるチェック——△印——は、不在圖書——こゝでは、書庫内の蔵書がその請求記號の示す所定の位置に無い場合を云ふ——が如何なる状態にあるか、換言すれば如何なる理由によつて不在なのかを全然示してゐないし、又示し得ないのである。その爲に、此チェックは、從來屢々閲覧者がこれは何を意味するのかと、更にその本はそれならば何處にどういふ風になつてゐるのかと説明を求められた所のものである。閲覧係(貸附)も、不在圖書が如何なる状態にあるのかは、實際に書庫にゆくのではないから判らない事が多いので、質問されると概ね返答に窮するのが常であつた。又その爲に萬障繰合して實際調査をする事も屢々あつたし、その都度相當の時間と労力を費さねばならなかつた。更に悪い事には、それが爲に出納事務の滞滯を來す事も稀ではなかつたのである。假にチェックの意味を尋ねないとしても、不審の念・不快の感をおぼえた閲覧者は尠からず居たに違ひない。

それ故に閲覧係は、此チェック一つで不在圖書が如何なる状態にあるのかが、明瞭に判る事を切に希望してきたのである。勿論閲覧者も多くの方がそれを望んでゐるに違ひないし、さうなれば再請求

をしてその日に讀めるか讀めないかが判るのであるから、今よりは遙かに閲覧者に對して親切になるのである。トピック第拾壹號にもそれに關した投書がある。自分も、なんとかして明示する法はないものか、なんとかして明示しなければならぬと、色々その方法を考へてみたのである。そして漸く次に記述する一私案を得たのである。但此私案は悉くが獨創であると云ふのではない。否、むしろ大部分は所謂燒直し——自分の見聞した事實を縫合して——なのかもしれない。

使用するチェックは次頁上欄に掲げたが、A案は記憶式符號(僕は之れを採りたい)として、B案は機械的符號として考へてみたものである。その方法には三通りが考へられるのである。三案のうち、乙案を採るのがよいと思ふ。

甲案 最初の調査(本を出す時)から此チェックを用ひる。

乙案 最初はレの代りにもソを用ひ、再調の節にレも用ひる。

丙案 最初は從來のチェック——△印——を用ひて、再調の節にこゝに記述するチェックを用ひる。

要領

1. チェックは、大體閲覧票の Title と云ふ小文字の眞下邊に常に出納手が記入する。

使用するチェック

A 案	B 案
チ → [分類カ番読ノ違フモノ]	① カ A
ホ → [補助記號ノ不足]	② カ B
ホ' → [補助記號ガ間違ツテケルモノ]	③ カ C
ト → [特別、貴重圖書]	④ カ D
タ → [館外帶出中]	⑤ カ E
セ → [製本中]	⑥ カ F
ナ → [館内閲覧中]	⑦ カ G
レ → [レツテル貼替中]	⑧ カ H
ソ → [其	⑨ カ Z
	カ

の意味と使用法を發表し、各出納所にも前掲のやうな簡単な揭示をして置く。此場合ソの説明は次の通り。『ソは其他の場合即ち、
館内閲覧中 中 中 中
整保留準理備覽中 中 中 中
を
示して居ります。そしてその大部分は館内閲覧中ですから、再請求な
されば、御覽になれる事が多いと存じます。』

2. チホホは其場所、で直に判る。トは普通閲覧票の時にのみ用ゐられる。タセは代本板の使用(後述参照)に依り是等も其場所で直ちに判る。ナは其出納手が確實に館内閲覧中である事を知つてゐる時にのみ用ゐられ通常はソの中に含まれる。レ即ちレツテルの貼替準備中のものは一階に在るので一階係に訊かなければ判らない。だから少し手數がかゝる。是等以外が全てソになるのである。その爲に乙案を理想とする——少しく不親切になるけれど——。

3. 此チェックを使用する際は先づトビックに此チェック

4. 代本板の使用法

- a 代本板にはその本の請求記號のみを、その短冊に記入する。
- b タは青インクで、セは赤インクで記入する。従つて、之がタとセの區別になるわけである。
- c タの場合——閲覧者の時は、その取扱者が、その都度短冊に記入する。
館員は必ず閲覧(貸附)係が、閲覧係長の認印を受けるから、その都度、その係或は係長が短冊に記入する。
- d セの場合——製本リストに書き込む閲覧係がその都度短冊に記入する。但し、製本リストは恠うなると無意味になるから、之を廢止するならば、一階出納手が、製本行の本のくる毎に、その請求記號をメモに記入し、之れを一階閲覧係のもとに提出する。それを受領した係は直ちに之れを短冊に記入する。
- e 短冊の記入と挟み入は一階閲覧係が之れを行ひ、挟み入れた代本板は、圖書扱ひにして直にそれ／＼分擔せる出納手により書架に收められる。
- f 代本板に該當する本を書架に收める時は、直にその代本板を取除き之れを一階出納手のもとに送る。一階出納手は之れを一階出納所の所定場所に短冊をとつて、——短冊は兩面を即ち

二度使用する——收める。

7 短冊・代本板——同程度の大きさの本のケースを代用し得——は豊富に一階出納所の所定の場所に保管して置く。

恚うして、自分の考へでは、この私案によつて、極めて容易・迅速に不在圖書の状態が明示し得ると思ふ。幸にして、此拙案が何等かのヒントとなり、良い方法が見出し得ればよいと思ふ。そして一日でも速く、明示する方法が實施されることを閱覧係として切望してやまぬ次第である。

リフトと室内衛生

眞山 正吾

エレベーター操縦法に就いて

本館書庫に設置されてゐるエレベーターの取扱ひ方法については、諸君既に御承知のことと思ひますが、此エレベーターの操縦方式は、自動押釦式と云つて、大變簡單化されて居り、何人でも操縦出来る様になつてゐるのですが、簡單なるが故に、往々、其の操作方法迄簡略してゐるのを見懸け、係りとしてその都度一應注意してゐるのですが、直接出納事務に携はらない方々の爲をも兼ね、紙上を以て一通り説明致します。

- 一、圖書の出し入れには必らず、「スイッチ」を切る(滅・OFF)こと。
- 二、使用済みの時は「スイッチ」を元通り入れる(點・ON)こと。
- 三、スイッチを入れてから釦を押す事、釦を押しながら「スイッチ」を入れぬこと。
- 四、圖書はケージ(箱)内へ完全に納めること。
- 五、ケージが上昇又は下降中反對の釦を押し乍ら待たぬこと。

右の内(三)と(五)は機械の構造上の特殊な理由に依ります。

本館エレベーターに限らず、此種諸機械に使用する電動機は、其目的及び構造上、起動する時最大の回轉力を要し、又それに耐へ、思ひの外上昇力が強いのであります。下降する時は兎も角、危険なのは上昇する時です。

以上大體の性質を御承知になつた上、餘り狃れ過ぎず正しく取扱はれる様御願ひいたします。

室内衛生について

慶大醫學部助教授、醫學博士原島進氏の「室内衛生に就いて」と題する講義を聞き、室内温度に関する處丈抜萃して見ようと思ひます。

醫學的に見て、人體に一番良い條件は

温度 $16^{\circ}\sim 19^{\circ}$ 湿度 $30\%\sim 75\%$ 動搖(空氣) $0.5m/sec$

でありまして、この中空氣の動搖は、自然對流に依る丈で宜しいのであります。湿度は可成考慮しませんが、大變人體に良くないのです。

日本では湿度は、夏季には高く、冬季になりますと低くなるのであります。米國等では日本の正

反對なのであります。故に我國に於て、冬季煖房等を使用する場合、温度だけ昇げ、湿度を高めさせんと、室内温度は可なり高いにも拘らず、寒氣を催し、呼吸器を傷め、大變悪い結果になるのであります。又湿度を適度に高めますと、温度としては餘り高くなくとも非常に氣持良く、人體にも大變良いのであります。又始めに述べました温度 $16^{\circ}\sim 19^{\circ}$ の問題ですが、之は 15° 。或は 13° 。としましても、必ずしも人體に悪いとまではいかないのであります。

それから換氣の事ですが、煖房方法にも依りまして、電氣又はスチム、或は温水に依る煖房等では、此煖房あるが爲に室内の空氣が悪くなる等と云ふ事は決してないのであります。私共が慶大の病院に入りますと、ボーツとするぐらゐる温度は高いのですが、適度の湿度を保つて居りますから、夏が來た様で人體に悪いとは云へません。人間の住む家は、其の構造上如何しても外氣が自由に出入するのであります故、室内に悪いガスを發生する物があるか、餘程多人數の人が居ない限り、特に換氣の必要はないのであります。大概の場合は、二三の窓を開ける程度で済みます。

大體室内に關する事はこれぐらゐであります。拙文をお讀みになつた方々に幾分でもお役に立てば本望であります。



圖書が書架に納まり閲覧者に依つて利用されるまで、果して幾多の心づかひが館員等に依つて行はるゝであらうか。その手續は……

イ 圖書の選定

ロ 圖書の受入 圖書の選定の後購入決定圖書は遅滞なく直に購入圖書原簿に受入手續を了し及び返却 選定から洩れた圖書は送状に記載して返却。寄贈圖書は圖書寄贈簿に記入し、禮状を發送し寄贈者芳名を記入する。

ハ 圖書の検査 受入手續を了したる圖書は、汚損・破損・落丁・亂丁等を調査し、支障なきものは受入番號が與へられる。

ニ 藏書印 前述の調査を了したる圖書には、藏書印・購入若くは受贈日附印及び隱印等を押捺する。

ホ 目録 事務用カード・閲覧用カードの作製。

ヘ 分類 所屬分類が決定すると記號を付與せられる。

ト 整理

次に新刊記號（暫定記號）を定め、一定期間顔見世として新刊棚に排列せられ、後本格の請求記號を擔つて書架に納められる。同時に函架用リーフに登録せられる。

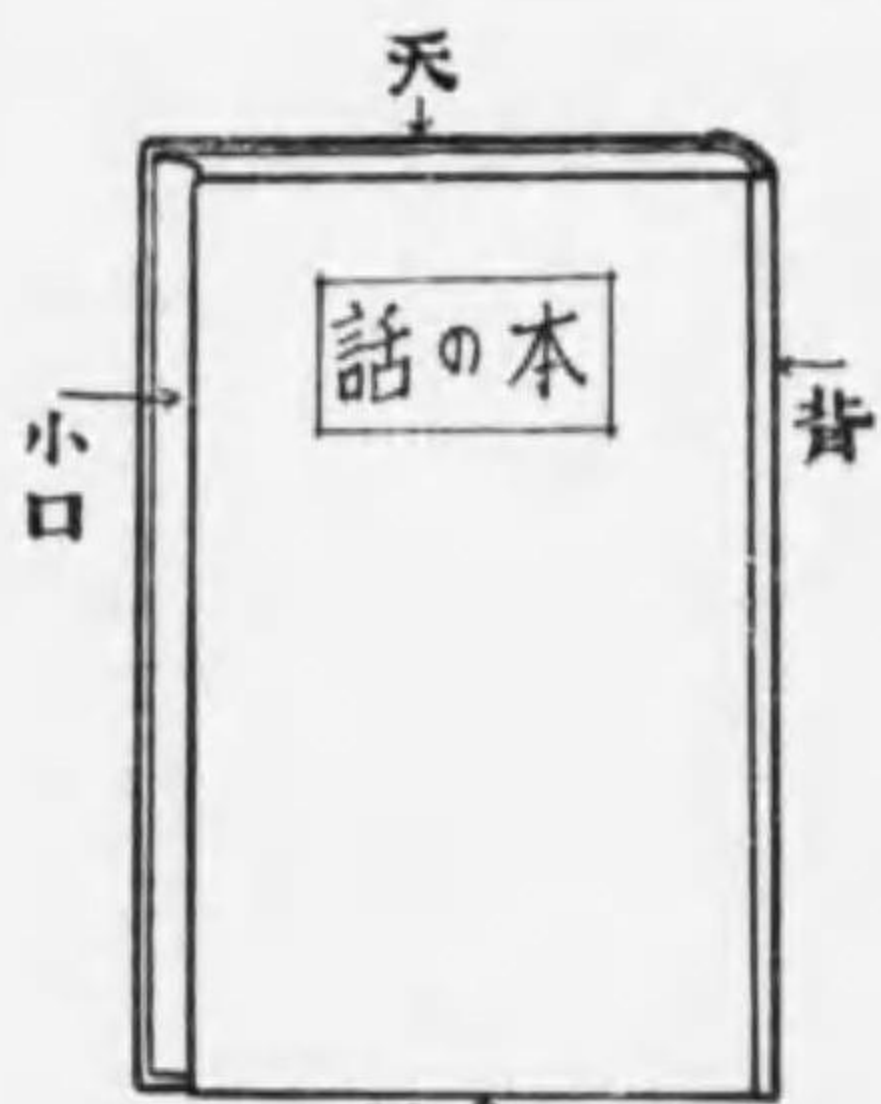
註・イロハ順は決定的のものでなく大體斯様な風に順次移行するものである。

へ・分類の項は「坪谷先生喜壽記念著作集ノ内・現行著者記號の種々相——大橋圖書館の著者記號以下を参照して下さい」

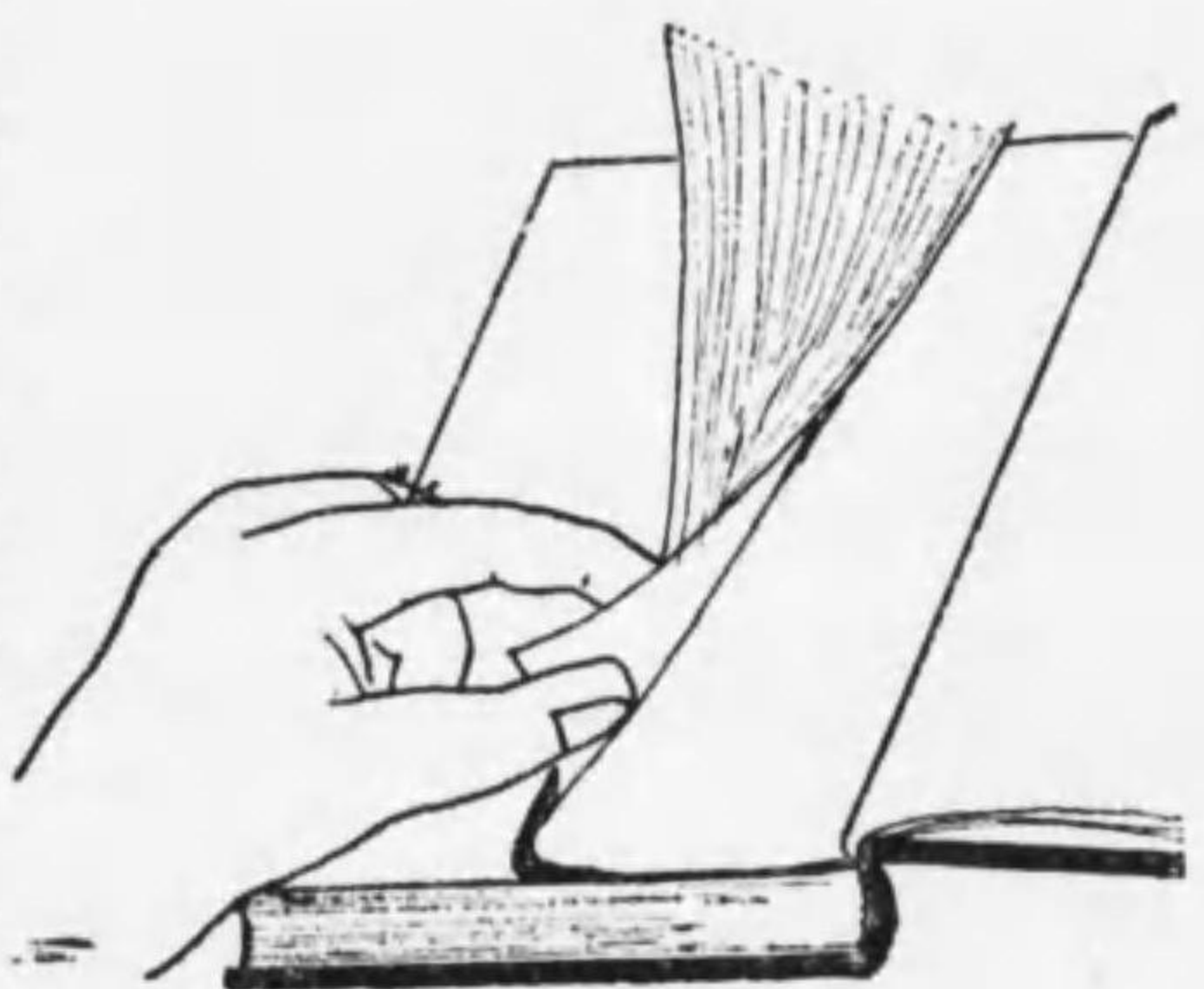
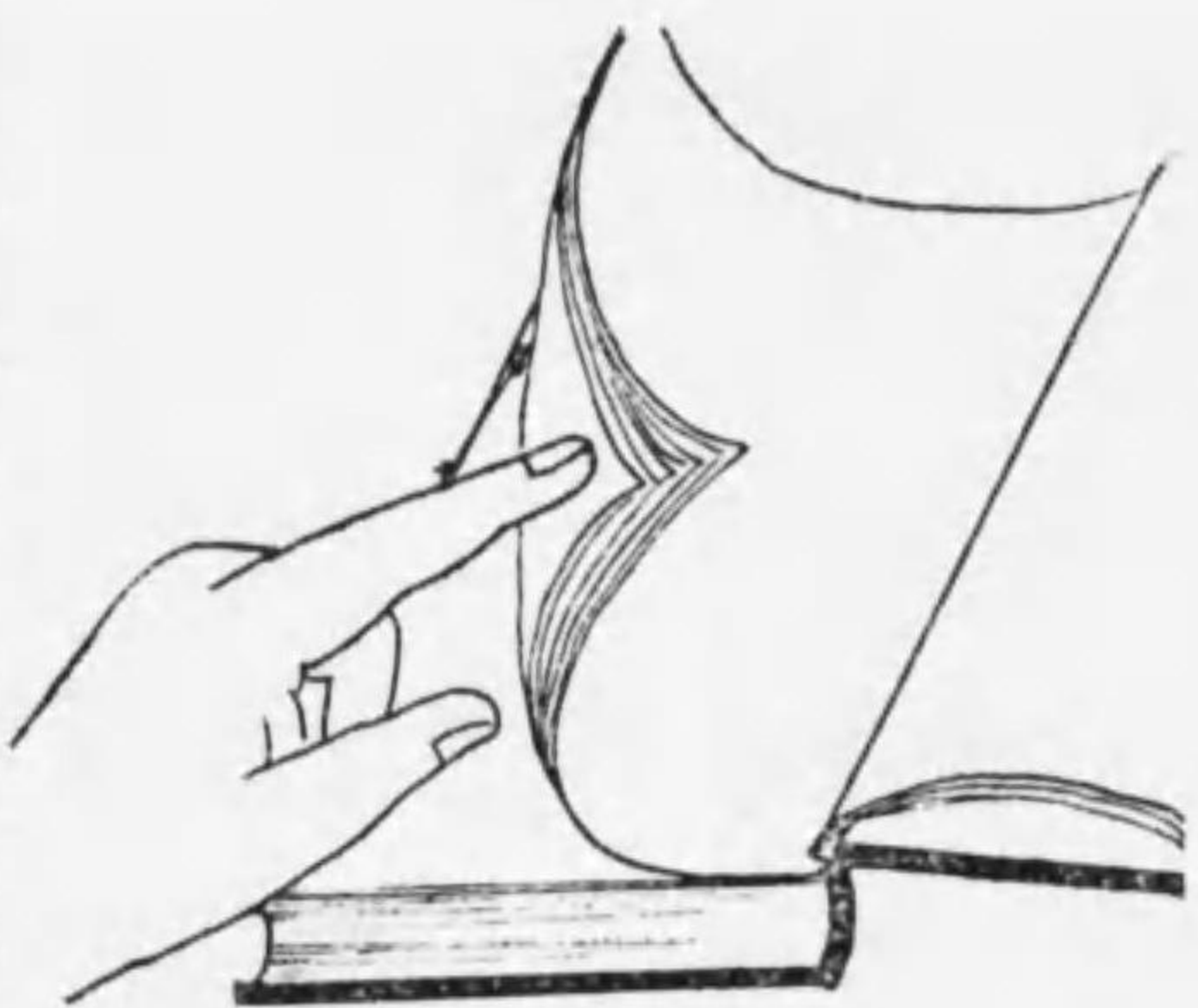
一冊の圖書と雖ども斯様な順序を経てその利用せらるゝまでの苦心及び勞力は仲々大變なものである。一般人の考へに依れば書店より圖書を買つて棚にそのまゝ載せて、閲覧者が來た時、はいそれと直に役立つものと考へてゐる人々が多いのではないでせうか。私達館員は勿論閲覧人の希望圖書を、はいそれとお貸しすることの出来る様努力は致して居りますが、管理上仲々容易に運ばないのが残念です。併しこれも亦止むを得ないこととせう。それからこの外に分類や整理の苦心・閲覧カードの繰入等種々の心勞が多々有ると存じますが、此點に就いては先輩の方々に本誌を通じて成るべく詳細にお書きして戴ければ幸で御座います。前置が大變に長くなりました。ひどく大雑把な表現の仕方です。譯もありません。

圖書の検査 皆さん、若し貴方が圖書をお買ひになつて汚れてゐたり、落丁があつたり、亂丁、破損などしてゐたら勉強の妨げにもおなりでせう。又不快でありませんか。圖書館でもかうした圖書を發見次第取換へて閱覽者の勉強を妨げぬ様、不快の念の無き様注意してゐるものです。購入簿若くは寄贈簿に記入済の圖書は落丁調べを致します。

圖	書	洋裝本	購入圖書
		和製本	寄贈圖書
一枚物	折本		



洋裝本 本製本・假製本に分けます、圖書に異状が見られなかつたら假製本は製本所へ締め直しに出されます。總體に於て製本くづれの有無を表裏表紙の調査をして圖書を眞中より抜き、かるく抜いた所よりスツとなでます。眞中より抜いたのでから二等分されてゐます。その左右の二等分の部分を更に眞中より抜きかるくなでます。部厚な圖書は更に二等分して同様なことを繰返します。どの様な圖書でも参回だけはかるくなでて戴きたいものです。併し二三十頁の薄い圖書



は一枚／＼めくつて戴きたいと存じます。前述の眞中より眞中にと抜きかるくなでるのは申すまでも有りませんが、背中の膠をかるくはがして頁をめくるのに都合良い様にするの

が目的なのです。それから表紙をめくり、序文目次等を一枚／＼めくり二十枚位まで適當に見ます。汚れず破れず頁數の順序なども間違つてゐないときは、次の様な方法で落丁調べを致します。先づ人差指でかるく三、四十頁を折返してかるくおさへ、拇指を折返した反對側にてはさみ、かるく手前に氣持だけ引きよせまると、小口は地より天にかけてばつと抜いて行く。抜いた所を右手で五枚づゝ取りさつて行きます。丁度五枚は拾頁に當りますから、三

十、四十、五十頁と……繰られ最後に端数だけ一枚／＼繰り落丁調べが終ります。この落丁調査に五枚繰るときにその一枚／＼を覗き見するつもりで見に行きますれば、大體汚れ・破れは見當ります。かうして頁數も變りなく即ち汚損・破損・落丁・亂丁・製本くづれ等がなかつたとき圖書の検査は終りであります。但し横組の圖書は左より始まるが、縦組の圖書は右より始まる故、落丁調査の方法は反對となることは申すまでもありません。

和装本 洋装本と同じ、唯丁數が一枚一丁のこともあり、一枚二頁の圖書もある點注意されたし。

折本・一枚物 必ず全部披げて見ること。

寄贈圖書の落丁調べは僅少の汚れ破れ亂丁等は補修致します。落丁のときは寄贈者へ其旨を申述べ取換へて戴くか、或は落丁部分だけを戴き製本し直すことである。大體これで終りであるが、よく圖書には八頁又は十六頁ひとかたまりとなつて披くことの出来ない圖書がある。このときはペーパーナイフか又は少しく堅いカードで、小口・天・地等をざく／＼と切ることで、決して鋭利な刃物で切つてはなりません、餘計な所まで切る恐れがあるから。かくして藏書印の押捺となります。最後に圖書は必ず綺麗な手で扱ひたいものです。また業務の苦勞は明日への楽しい疲れでもあります。

館内の掲示についての覺書

三 宅 隆

◇ 掲示又はポスターが、見る人に滑稽感を抱かせたとしたら、その紙片は、も早一片の反古よりも無駄であり、邪魔なものになる。

◇ 『明るい應接、機敏な出納』と貼られた標語の下で、暗憎として無愛想な應接が行はれてゐたとしたら、これは、滑稽を通りこした、一枚の諷刺畫となつてしまふ。

◇ 掲示は、それによるを最上の策なりとする場合にのみ行はるべきこと、且つ、同一場所に掲出される枚數は可及的少數なるべきこと。

◇ 掲示に使用する文字は、敢へて達筆を必要としない。醜惡ならざる限り、むしろ分りよく読み易いことを第一要件とすべきである。

かつて横山大観描くところの大内山の眞景を題材とした、あるポスターを見受けたものであるが、それに對して、ポスターとしては零の評點を與へた人もあつた。此頃ある喫茶店の裝飾窓に、方尺餘の純白地に眞紅の日の丸を置き、裂地にふちどられた扁額を見て、その美しさ端麗さに愕然としたものである。あたら畫壇の巨匠の作も、つひに街頭の一裝飾に及ばないのである。

およそ掲示に使用する語句は、生硬を避けるべきである。ある警察署の、花どき盜難豫防のポスターに、法令の條文をそのまま寫したかの如き淺項目を書き記し、その熟語の意譯を振假名してあつたのなど、滑稽以外の何ものでもなかつた。

時すぎのてポスターの掲げてあるのを見ることは味氣ないものである。破かれた掲示、すゝけた掲示、落書された掲示、これらは、いづれも速かに撤去又は書換へられるべきである。普通洋紙に書かれたものは一ヶ年以上掲出されてあることは不體裁である。

館員にのみ知らせるべき内容の掲示は、閱覽者の眼に觸れざるをよしとする。

學校、講演會、講習會等から送られてくるポスターを、秩序もなく、場所も考へずに貼りめぐらしたとしたら、これは圖書館の威嚴に影響するところ、すくなくない。愚案するに圖書館の正門から玄関、受付から目錄室へ達するまでの途中は、必要不可欠の掲示以外は何も貼りたくないものである。

壁面に貼られる掲示の高さにはおのづから限度のあるものである。その室の廣さにもよることながら、普通四十度以上もふり仰ぐ位置は避けるべきではなからうか。大多數の閱覽者は、その掲示に氣付かずして通りすぎるからである。

參觀者が、觀て以て奇異な感を抱くやうな掲示は、これを掲出すべきではない。

手寫されたものは別として、活字により印刷されたものを額面に入れて掲出する場合は特別の考慮を必要とする。若し、それがガラスが裝填されてゐる場合は、窓からの、又は電燈からの光線の反射といふことに對して、殊更らに親切な注意が拂はれなくてはならない。

附 録

野戦図書館に就いて

竹 内 善 作

北米合衆國教育局刊行の Library Leaflet, no. 14 に、カール・エッチ・ミラン氏は「歐洲大戰中キャンプ図書館で讀まれた圖書は、一九一七年の夏から一九一九年の秋にかけて、七百萬冊に達してゐるが、この野戦図書館で讀書をした人々は、公共図書館などの施設のない地方から來てゐたものが大多數で、一個所に數多の圖書が備へられてゐるのを見て、非常に驚き、且それが無料で自由に圖書館の内外で讀まれるなど、云ふことは、容易に信じなかつたと云ふことである」と述べ、これに依つて「一般に多くの人々は、普通の境遇では圖書館や圖書に、親しむことが尠いものだといふことが、戦争によつて判つた」と前置し、又「氣持のよい場所に數多の圖書を備へ、それを自由に閱覽させるとすると、人は自ら讀書家や研究家になるものであると云ふことも確められた」と説いてゐる。右の一文によつて如何にそれ等の施設が出征將士に慰藉と利益とを併せ與へたかが判る。

これに關して又北米合衆國の著名な圖書館員等は、異口同音に、歐洲大戰が圖書館員に何を教へ、何を爲さしめたかを説き、「國民的精神の涵養と世界の各種の問題の理解をなすには、圖書館が最も適當な場所であらう。圖書館は現時の主要な問題に就いて、その兩面の圖書を備へてゐる。そしてこの戦争に於て圖書館員は戰闘員と同じやうな活動をした。その結果圖書館事業は社會のあらゆる團體生活の中に入つて、そこに重要な活動をなすものであると云ふ事を、一般に諒解させた」と語つてゐる。

この野戦図書館は、分類とか目録とか普通の出納規定などに囚はれないで、如何にせば最善の奉仕をなし得る——即ち希望の圖書を迅速に提供し、且能率を十分に擧げ得る——かを眼目として試みられたもので——それには特に事務に明るい有能な人材を要することが、痛切に感ぜられたと云ふことであつたが——。その結果北米合衆國では、この種の圖書館事業が、如何に軍隊中に必要であるか、認められ、次いで病院事業など、同様に、陸海軍の監獄内にも試みられ、今日では平時一般の監獄及び其他の救濟機關にさへ、是非とも普及しなければならぬものになつてゐるのである。

支那事變の發生は圖らずも吾人をして、こゝに歐洲大戰當時に於ける、北米合衆國の圖書館員の活動を回顧せしめ、心中忸怩たるものあらしめる。今やわが忠勇なる將士は、海に陸に空に勇戦奮闘寧日なきもの、如くである。而も滯陣稍久しきに亘り、秋風慌しく戎衣を吹いてすさぶ時、感懐を遠く

家國に寄するものも決して尠くはないであらう。殊に南北に東西に相隔てたる友軍の消息に就いては、一刻千秋の思ひで待ち侘びてゐるに違ひない。かゝる時讀み古した圖書の受贈、必ずしも無用とは云へまいが、それにもまして望むものはニュースであり、好ましいものは新刊の畫報であり、健全な新しい小説や史實であり、又國民精神を振作するに足る時宜に適した新刊書であらう。吾人はこの間に處して單に慰問圖書の募集のみで晏如としてゐてよいであらうか。否！ 否、キャンプ圖書館の開設こそ、吾人に課せられた戦時に於ける必須の任務ではあるまいか。

戦地巡廻文庫

愛 澤 豊 勝

支那事變始まつて茲に三月皇軍は到る所、着々としてその戦果を収めては居るものゝ戦闘はまだまだ續くものと思はねばなるまい。我圖書館界からも既に多數の兵士を戦場へ送つて居る。

ひろがへつて銃後を見るに國民の熱誠は日に擧つて止まることを知らぬ。兵士並びに遺家族の慰問に就いては當局及び愛國諸團體により萬遺漏なきを期されて居る事であらう。

この度應召されたる兵士は日常新聞雜誌或は書籍に親しんで居る者がその多數を占めて居ると思はれる。過日ラヂオ報道に依れば、今回戦地に於て陣中新聞が發行され、大好評を博して居るとの事であるが、これは明かに一般兵士の知識の向上を物語るのである。

日常文字に親しんで居る者が、讀み物に離れるといかに淋しいかは吾々の常に經驗する所である。遠く海を越えて祖國の爲に戦ふ兵士も、一度び凱旋の後にはまた生活の第一線に立たねばならぬ以上、絶えず新しい知識を吸収しなければならぬ事は言ふまでもない。當局に於ても慰問袋に書籍や雜誌を入れる事を奨励して居る様であるが、それよりもままとまつた文庫として送る方がどんなに効果的であるかわからぬ。

かう云つた所謂戦地巡廻文庫なるものが戦地に送られる様になつたのはかなり以前からであつたらしいが、歐洲大戰を期とし素晴らしい發達を遂げたのである。この文庫が陣營生活、病院生活の單調を破り、兵士に娯樂と趣味とを與へ、また如何に士氣を鼓舞したかわからない。

歐洲大戰の際、列國が如何にこの文庫に力を入れたかを簡単に述べて見やう。米國に於ては、各州の圖書館評議員が戦地に書籍を巡廻せしめんが爲それ〴〵多額の費用支出を可決した。米國圖書館協會はかの大規模なる圖書貸出運動を行ひ、また、くうちに數萬の圖書を得たし、また絶えず圖書館から、諸團體から、或は個人から戦地へ圖書を送つたのである。英國に於てはガスケル夫人なる無名の一女性に依つて提唱されたる戦争文庫が、陸軍大臣の賛同を得て、たちまち全國的の運動と化し、戦時を通じて、約六百萬冊の書籍雜誌を巡廻せしめた。一方獨逸に於てはハムブルグのドイツ文豪紀念財團の手に依つて計畫され、約十二萬冊の書籍を配布して居る。我國に於ては西伯利亞出兵の折、日本圖書館協會に依り全國の圖書館を動員して約三萬五千冊の圖書雜誌類を集め、これを西伯利亞に送つた。尙滿鐵圖書館にても一萬數千冊の圖書を送つてゐる。また過ぐる滿洲事變の際も滿洲駐屯軍慰問圖書として協會から送つた圖書雜誌は四萬七千冊を數へるのである。而しながらかくして集められた圖書が悉く戦地へ送られたのでは無くして、不用のものが保留せられた事勿論である。

しからは如何なる種類の書籍を送つたかと云ふと、各國ともその半數以上は娯樂物通俗物である。試みに獨逸に於ける戦地巡廻文庫 (Die fahrende Kriegsbibliothek) の目錄を掲げて見やう。

A 項 娯 樂

- | | | | |
|-------|---------|--------|-------|
| 一 笑 話 | 二 紀行冒險談 | 二 歴史小説 | 四 民 謡 |
| 五 詩 歌 | 六 小 説 | | |

B 項 獨逸文學

C 項 傳記、地理、歴史、政治、科學、哲學等

右の如くA B Cの三項よりなり、戦地の無聊を慰めるべく娯樂欄に力を入れて居る。A 項六の小説には特に戦争小説がその多數を占めて居るのであるが、英米の翻譯小説も含まれて居る。B 項は國粹の獨逸文學を入れるのであるが、時局にふさわしき労働歌、俗謡等も含まれて居たさうである。

我が國に於てはこの圖書選擇が特に困難であるが、娯樂物以外の書籍に於て要求せられるものは、畫報類、通俗科學書、支那の地理歴史風俗等に關するもの、また何故吾々は蔡介石一派を膺懲すべきかに關する解説書及び修養書等であらうか。

日支親善達成の暁には、この文庫を如何に處理すべきかに就いては今茲に論ずる必要はないが、日・

278
319

ソ、滿・ソ國境及び支那駐屯軍に巡廻せしむ可きであらう。
先般來、私立圖書館懇話會に依つて戦地巡廻文庫が計畫されつゝあつたが、最近に於て亦文藝家協會に依り前線文庫なる名稱にて圖書を戦地へ送られるさうである。日本圖書館協會も皇軍慰問圖書を募集する由であるが、何れにしても一日も早き實現を希望して止まぬ次第である。

昭和十四年五月廿二日印刷
昭和十四年五月廿六日發行

編輯兼發行人 竹内善作
東京市麴町區九段一丁目三番地
發行所 財團法人 大橋圖書館
東京市麴町區九段一丁目三番地
印刷者 島 潔
東京市小石川區久堅町百〇八番地
印刷所 共同印刷株式會社

終